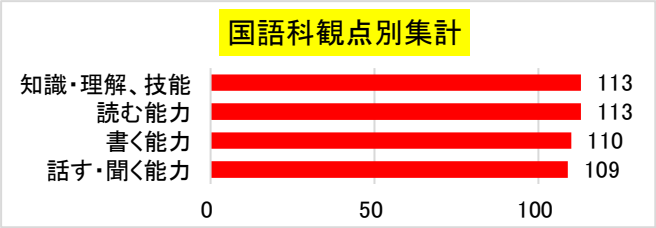
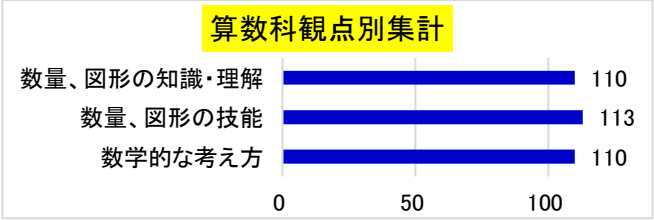
Ｈ３０塩川小学校　校長室だより　31年2月27日(水)No.12

さわやか

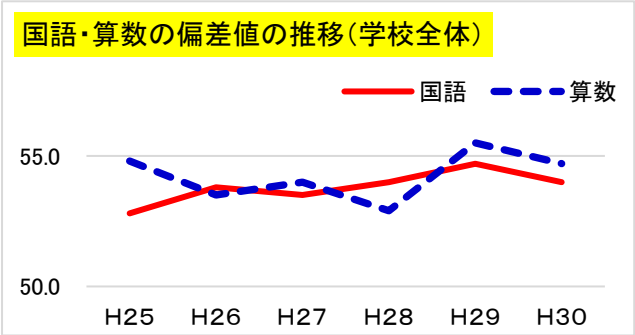
学力は、身に付き高まったか!？

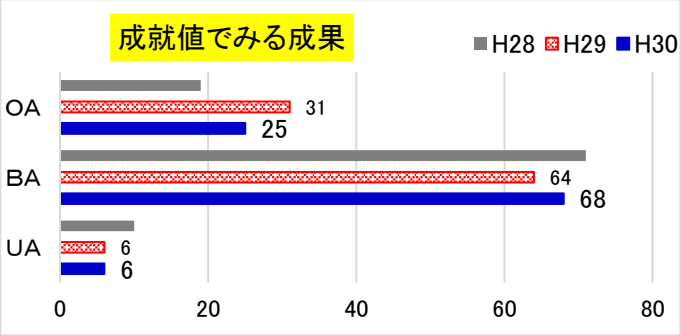


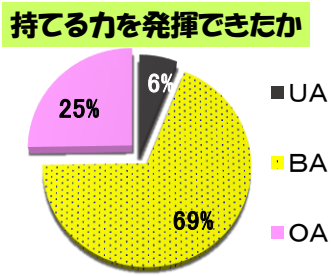


全国平均を 100 とみた場合、国語、算数とも全ての観点で全国を上回る結果となりました。観点別にみると、数量、図形の知識・理解と技能に課題があり、３年生で「わり算」、４年生と５年生で「分数とその計算」（４年生は、図形（垂直）も）、６年生は「分数の乗法、角柱体積」でした。

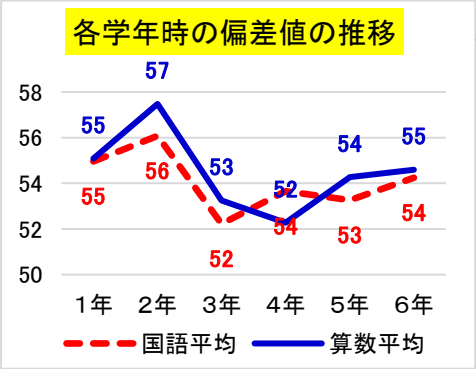
全てに共通した課題は、「分数、除法」でした。自学級を分析し、積み残しの解消を図りましょう。







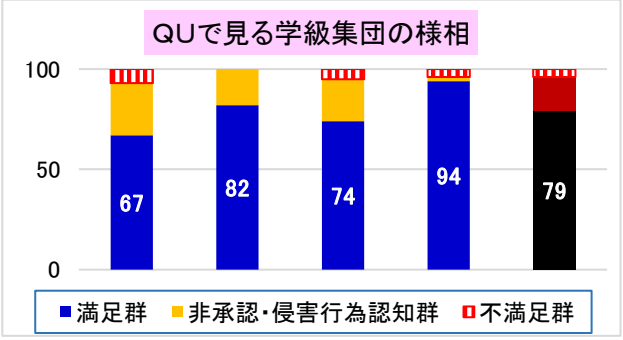
大切なのは「知能」（持ってる力）に応じた学力を発揮できているかと言うことです。「成就値でみる成果」（２教科総合）でみると、昨年と比べてＯＡが若干減少しましたが、ＵＡが６%と昨年同様の高い水準を維持できました。ここで、顕著な数値がみられたのは、３年生のＵＡの割合が高くなっているということです。昨年のＵＡは、０%でした。そして昨年のＵＡ割合が一番高かったのは、３年生（現４年生）で、18%を示していました。



小３ギャップは存在した!？！？！？

右のグラフからわかるのは、国語も算数も、その偏差値が３年生で一度下がると言うことです。経年変化をみたところ、これまでの全ての学年で共通して下がっていたことがわかりました。

３年生で ４ ポイントほど下がる原因は何なのでしょうか？今回の結果から言えるのは、「わり算、分数」に定着不十分、積み残しがあったのではないかと言うことです。原因を分析し、この課題を解消していく必要があります。

学力向上の必要条件！

子ども達が、学び合って解決する「集団協力解決学習」を成立させることが大切です。その基礎を、小学校教育でしっかり身に付けなければなりません。学び合い高め合える人間関係との因果関係を、学力とＱＵのバッテリー検査で確認してみましょう。